

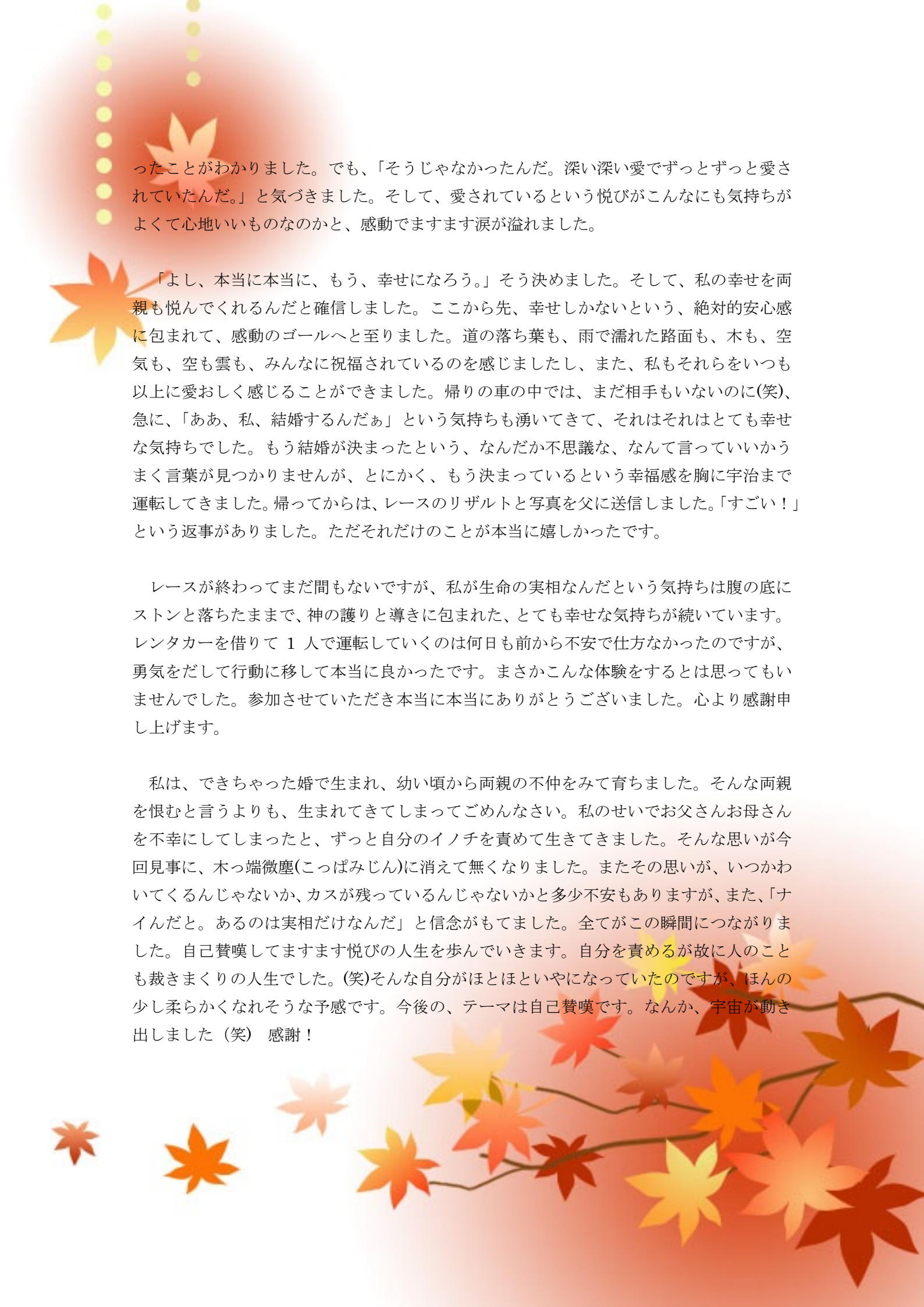
多宝塔ヒルクライム(9 / 19)における信仰体験 新田晃子さん

ありがとうございます。キツイキツイと聞いていた多宝塔ヒルクライム。やはり始めの2キロがとてもキツくて、今回は、さすがに途中で歩いてしまうかもと、出だしからめげてしまいました。もうだめだと思った時、いつも、ジャージの後ろポケットにお守り(聖經)を入れているのでそれに気持ちを向けて『神様ー！助けてー！』と思った瞬間、お守りをポケットに入れてくるのを忘れてきたことに気づき、大変なショックを受けました。

しかし、また、次の瞬間、『あ、私自身が生命の実相なんだった』ということに気づいたのです。開会式での大阪教区教化部長・久利修先生の『私たち自身が生命の実相で、如来、仏なんです』というお言葉に感動したので、そんな想いになれたのかなと思います。そして、ああ、まだ私は、物質アリだと思い込んで生きていたと思いました。聖經という物質にとらわれていました。その奥にある真理に目を向けていなかったなと気づきました。「私は聖經に書かれてある真理そのもの、私が生命の実相そのもの！」そう思ったら力がグングン湧いてきました。そして、嬉しくて嬉しくてたまらなくなりました。そうしましたら、思わず、「お父さんお母さんありがとうございます。」と、無意識のうちに、声を出していました。

そして、何故か中学、高校の頃のことを思い出しました。私はずっと、運動部でした。父はその度、親の会の会長を引き受けて、お役に邁進してくれました。しかし、試合の応援になりますと、まるでヤクザのような口調で相手チームやこちらのチーム、または、審判を罵る罵声を大声で発し、私はそれがいやでいやで、試合の度に「今日は叫ばないでね。」とか、「来なくていい。」と父にお願いしていました。それでも父は試合の度に熱くなり、私はチーム内でも肩身が狭くて、いつも悲しい思いで、試合にのぞんでいました。

何故かそのことを思い出した時、あれは父の愛だったと、初めて思えたのです。私を愛していたが故に、試合にも勝って欲しくてついつい叫んでしまっていたんだと。「え?」「私、お父さんに愛されていたの?」という想いになったら、「わー!」と泣いてしまっていて、自分でも驚きました。そして、まだまだ、色んな思いが、湧き出てきます。それなのに私はいつもいつも、父に怯え、恐怖し、私に対しても無関心で、愛情を感じていないんじゃないかと誤解していました。「お父さん、どんなに寂しかったらうか。本当に申し訳なかったー!」そんな思いも出てきて、さらに大声をあげて泣きました。もう、坂がキツイとかそんなことよりも、「ごめんなさい」と「ありがとう」が一気に出てきました。そして、ああ、私は無意識に不仲の両親に、あなたたちのせいでこんなに不幸なんですと、仕返したい気持ちが働いていたこと、そして、もっと、愛して欲しい求めの気持ちばかりがあ



ったことがわかりました。でも、「そうじゃなかったんだ。深い深い愛でずっとずっと愛されていたんだ。」と気づきました。そして、愛されているという悦びがこんなにも気持ちがよくて心地いいものなのかと、感動でますます涙が溢れました。

「よし、本当に本当に、もう、幸せになろう。」そう決めました。そして、私の幸せを両親も悦んでくれるんだと確信しました。ここから先、幸せしかないという、絶対的安心感に包まれて、感動のゴールへと至りました。道の落ち葉も、雨で濡れた路面も、木も、空気も、空も雲も、みんなに祝福されているのを感じましたし、また、私もそれらをいつも以上に愛おしく感じることができました。帰りの車の中では、まだ相手もいないのに(笑)、急に、「ああ、私、結婚するんだあ」という気持ちも湧いてきて、それはそれはとても幸せな気持ちでした。もう結婚が決まったという、なんだか不思議な、なんて言っていまいかうまく言葉が見つかりませんが、とにかく、もう決まっているという幸福感を胸に宇治まで運転してきました。帰ってからは、レースのリザルトと写真を父に送信しました。「すごい！」という返事がありました。ただそれだけのことが本当に嬉しかったです。

レースが終わってまだ間もないですが、私が生命の実相なんだという気持ちは腹の底にストンと落ちたままで、神の護りと導きに包まれた、とても幸せな気持ちが続いています。レンタカーを借りて1人で運転していくのは何日も前から不安で仕方なかったのですが、勇気をだして行動に移して本当に良かったです。まさかこんな体験をするとは思っていませんでした。参加させていただき本当に本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

私は、できちゃった婚で生まれ、幼い頃から両親の不仲をみて育ちました。そんな両親を恨むと言うよりも、生まれてきてしまってごめんなさい。私のせいでお父さんお母さんを不幸にってしまったと、ずっと自分のイノチを責めて生きてきました。そんな思いが今回見事に、木っ端微塵(こっぱみじん)に消えて無くなりました。またその思いが、いつかわいてくるんじゃないか、カスが残っているんじゃないかと多少不安もありますが、また、「ナイんだと。あるのは実相だけなんだ」と信念がもてました。全てがこの瞬間につながりました。自己賛嘆してますます悦びの人生を歩んでいきます。自分を責めるが故に人のことも裁きまくりの人生でした。(笑)そんな自分がほとほといやになっていたのですが、ほんの少し柔らかくなれそうな予感です。今後の、テーマは自己賛嘆です。なんか、宇宙が動き出しました(笑) 感謝！